

横浜市中央卸売市場の再編・機能強化について

1 中央卸売市場の再編・機能強化に関する基本方針について

包括外部監査からの意見を受け、「横浜市中央卸売市場開設運営協議会」の答申、「新市場整備協議会」での市場事業者との検討を経て、平成22年7月に決定した「横浜市中央卸売市場の再編・機能強化に関する基本方針」の概要は、以下のとおりです。

(1) 基本的考え方

- ア 商圏や立地条件などを考慮して、本場を中央卸売市場として、横浜市が引き続き開設・運営する。
- イ 南部市場は、中央卸売市場としては廃止するが、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用する。

	本 場	南 部 市 場
青果部 水産物部	中央卸売市場 外気遮断・温度管理型売場、 加工場等の整備実施 (本場に花き部はなし)	本場を補完する加工・配送、流通の場（原則民間による外気遮断・温度管理型施設への改修・整備）
鳥卵部		—
花き部		商圏（市内南部及び三浦半島地区）特性を踏まえた、民営の花き流通センターまたは民営地方卸売市場
関連事業		青果、水産物、花き部門の支援的な役割とともに、消費者等に開かれた業態化

(2) 目標時期

商圏が競合する東京市場の機能強化の動向（大田市場青果部の大型低温物流センター整備：23年度稼働、築地市場の豊洲新市場移転：26年度予定（※））を踏まえて概ね5年以内（26年度まで）を目標とする。

※ 豊洲新市場の整備時期は、竣工時期が1年延伸され27年度（25年1月 東京都記者発表）

2 本場水産棟の整備について

コールドチェーン対応の施設に転換することで、市民により安全・安心な生鮮食料品を供給するという中央卸売市場の使命を果たすとともに、大型量販店、専門小売店・飲食店などの新たな顧客を確保するため、本場水産棟を改修し、外気を遮断して低温管理できる卸売場や仲卸売場、新たな荷捌き場を整備します。市場事業者からいただいた意見を一部反映し、26年度に着工します。

24年度実績	25年度実績	26年度	27年度	28年度
基本設計	実施設計	工事	工事	低温化による全体供用開始

3 南部市場跡地の活用について

(1) 跡地活用について

南部市場跡地の活用にあたっては、普通財産に転換したうえで、売却ではなく定期借地・定期借家による貸付を行うこととします。

具体的な活用方法を検討するため、現在、南部市場で事業を行っている事業者との意見交換と意見集約を目的に各部門代表者による「南部市場土地利用検討会」を立ち上げ、23年11月から協議・調整を行ってきました。

そして、26年3月に開催された土地利用検討会で、以下のとおり「土地活用のゾーニング」をお示しし、合意されました。

なお、「物流」、「賑わい」エリア内の詳細については、引き続き調整していきます。

・物流エリア

本場を補完する加工・配送、流通の場及び花き地方卸売市場として活用します。

・賑わいエリア

物流エリアを確保しつつ、約4万㎡で、飲食・物販など「食」を中心とした賑わいを創出します。



<参考> 主な土地活用計画

青 果	既存施設の活用・低温化施設の新設による本場で取引した物品の受け渡し、カットなどの加工・パック、配送等
水 産	既存施設の一部低温化による本場で取引した物品の受け渡し、カットなどの加工・パック、配送等
花 き	地方卸売市場
賑わい	商業施設など賑わいの場

※ 土地・建物の貸付料については、26年度中に財産評価審議会の評価を受け決定します。

(2) 跡地での物流について

南部市場は中央卸売市場を廃止しますので、27年4月以降、南部市場跡地を卸売業者は市場外指定保管場所として、仲卸業者は市場外施設として使用することで、卸売業者・仲卸業者・売買参加者が本場で取引した物品の受け渡しを行い、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用します。

・市場外指定保管場所（卸売市場法第39条、横浜市中央卸売市場業務条例第42条）

卸売業者からの申請に基づき市長が市場外指定保管場所として指定します。市場外指定保管場所とは、産地からの物品を、市場を経由しないで直接受け渡してできる場所です。

・市場外施設（横浜市中央卸売市場業務条例第49条）

仲卸業者は開設者に届け出れば、市場外に貯蔵・保管・仕分け・配送等の場所を設置することができます。市場外施設では、買い手から注文があった物品を受け渡すことができます。

4 市場事業者に対する支援について

再編・機能強化にあたって市場事業者の負担を軽減するため、本場及び南部市場の事業者から出された要望を踏まえ、次のような支援策を提示しています。

項目	支援内容
使用料関係	<ul style="list-style-type: none"> 本場水産棟の施設使用料については、温度管理型施設整備に伴い農水省方式での試算では現行の2倍以上となるものの、負担軽減のため現行使用料の1.5倍に抑制したうえで、<u>当初2年間の据置きのち段階的に引き上げ、平成31年度から全額徴収</u>します。 南部市場から本場へ移転する事業者については、<u>本場と南部市場の現行使用料の差額分を4年間全額減免したのち、段階的に減免額を減らし、平成34年度から全額徴収</u>します。
移転費用関係	南部市場から本場へ移転するために必要な経費については、必要額を精査の上、 <u>一部を助成</u> します。(移転経費の1/2、助成上限額500万円)
事業転換等融資関係	<u>本市制度融資を利用する場合は、保証料を全額助成</u> します。 対象経費等は、移転経費(上限500万円)、事業転換を行う経費、事業者の統合・大型化や店舗改修・低温化等のための経費等(上限各1,500万円)
温度管理化に伴う助成	フォークリフト等を電動化するための <u>買換等費用の一部を助成</u> します。(買換等費用の1/2、助成上限額1台当たり200万円)

5 平成26年度の取組について

(1) 本場の機能強化について

ア 南部市場の仲卸業者は、南部市場廃止後も仲卸業務を継続する場合には、本場に移転し、本場の仲卸業者として営業を行うこととなります。

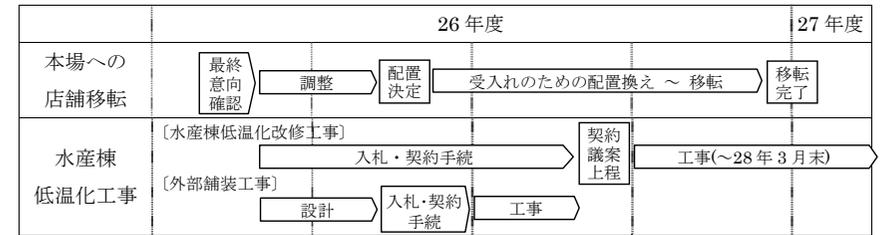
水産物部については、現在、南部市場事業者の最終的な本場移転の意向を確認中ですが、両市場の事業者と調整を行い、8月末までに本場仲卸売場での店舗配置を決定します。

なお、南部市場から移転する事業者の受入れや低温化する水産棟内の円滑な動線確保のため、本場では事業者の同意を得たうえで、一部店舗の配置換えを実施します。

青果部については、両市場の仲卸業者と開設者との協議の場を設け、本場への受け入れに向けた準備を進めています。なお、本場の店舗に十分な余裕がないため、複数の事業者による共同店舗を含め対応します。

イ 水産棟の低温化改修工事については、入札・契約の手続を進め、第4回定例会に契約議案としてお諮りし、議決をいただいたうえで27年1月に着工、工期は28年3月末までの15か月を予定しています。

また、26年10月から11月にかけて水産棟の外部舗装工事を行います。



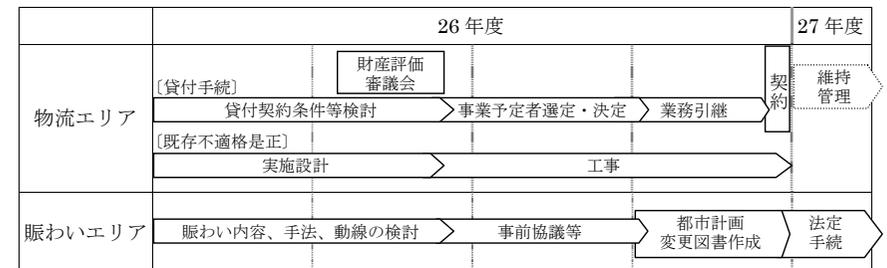
(2) 南部市場跡地の利用について

物流エリアについては、各事業者が跡地活用に向けた具体的な準備を進めます。また、貸付料等、具体的な貸付条件を上半期中に検討し、今年度末に賃貸借契約を行います。

現行法令に合わない既存不適格建物の是正については、上半期中に実施設計を完了し工事に着手、今年度中に是正工事を完了します。

賑わいエリアについては、引き続き場内関係事業者の意見を広く聴きながら、内容や手法、場内動線等の検討を進め、固まり次第、都市計画変更の手続(※)を行っていきます。

※ 商業等の用途として使用する賑わいエリアについては、都市計画法上の扱いを変更するとともに、臨港地区の規制を受けないようにするための地区計画の策定などの手続が必要です。



横浜市中央卸売市場の現状

平成26年 5月28日

横浜市中央卸売市場

目 次

1	横浜市中心卸売市場の概要	1
2	横浜市中心卸売市場の取扱高	
	(1) 部別取扱高	3
	(2) 市場別・種別取扱高	
	青果部	5
	水産物部	7
	鳥卵部	9
	花き部	10
	食肉部	11
	(3) 全国主要都市との比較	12
3	横浜市中心卸売市場の位置・平面図	
	3市場の位置	13
	3市場の平面図	14

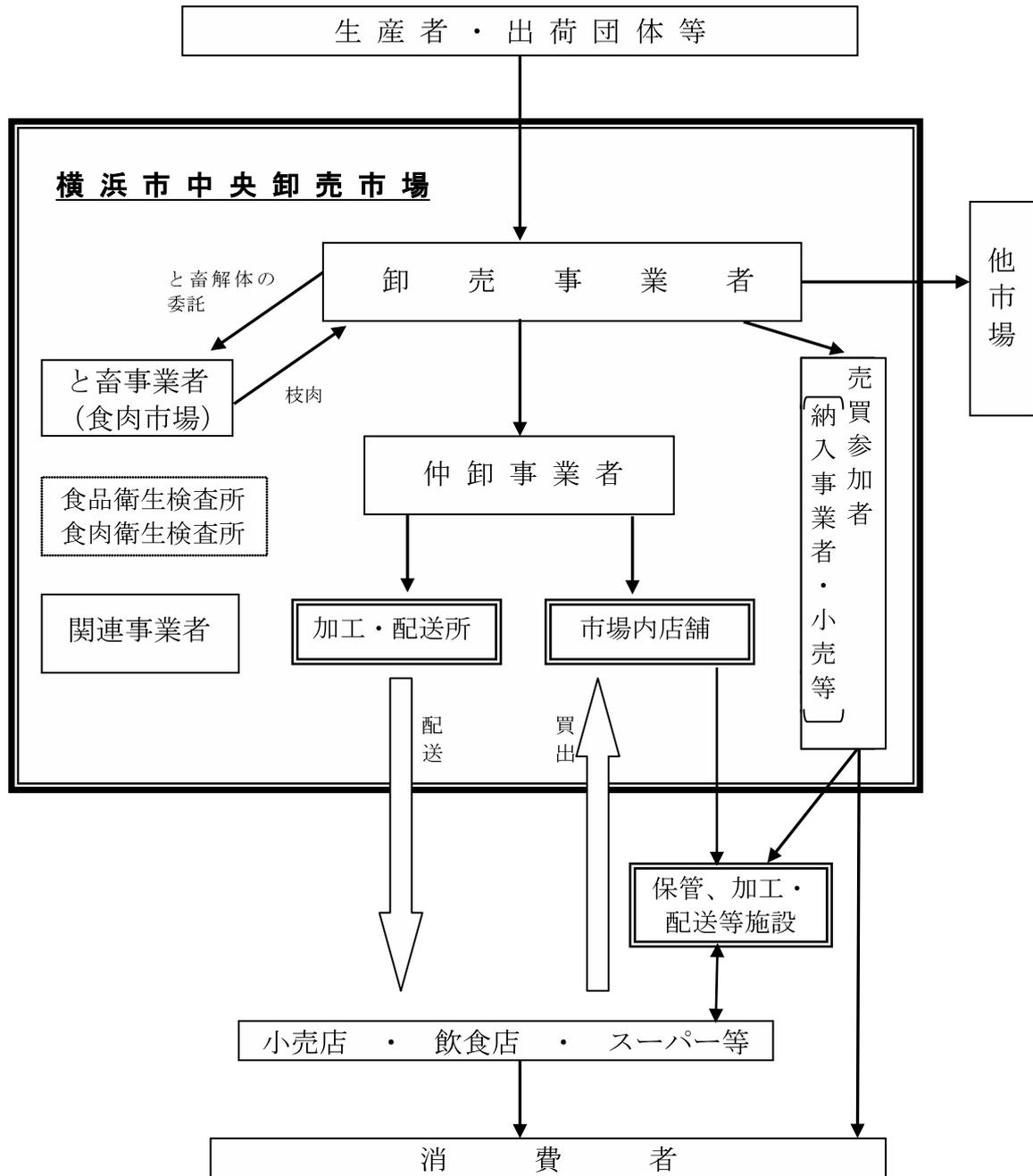
1 横浜市中央卸売市場の概要

(1) 施設概要

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

市場名	本場	南部市場	食肉市場
開設年月日	昭和 6 年 2 月 1 1 日	昭和 4 8 年 1 1 月 8 日	昭和 3 4 年 1 1 月 5 日
所在地	神奈川県山内町 1 番地	金沢区鳥浜町 1 番地 1	鶴見区大黒町 3 番 53 号
取扱品目	青果 水産物 鳥卵	青果 水産物 花き	食肉
敷地面積	106,211 m ² (うち公の施設 106,211 m ²)	168,227 m ² (うち公の施設 155,887 m ²)	42,600 m ² (うち公の施設 42,600 m ²)
建物 (建設時期)	延べ床面積 131,789 m ² 青果棟：昭和 60～平成 4 年 水産棟：昭和 55～61 年 【主な施設】 青果棟 47,342 m ² 水産棟 50,282 m ² 関連棟 6,992 m ² 第 1 冷蔵庫棟 5,780 m ² 第 2 冷蔵庫棟 3,602 m ²	延べ床面積 104,783 m ² 青果・水産・花き棟： 昭和 46～48 年 横浜フレッシュセンター： 平成 17～19 年 【主な施設】 青果棟 19,358 m ² 水産棟 14,615 m ² 花き棟 2,453 m ² 関連商品売場棟 8,925 m ² 冷蔵庫棟 10,304 m ² 横浜フレッシュセンター 17,559 m ²	延べ床面積 22,778 m ² 本館棟：昭和 63～平成元年 仲卸棟：平成 6～7 年 【主な施設】 冷蔵室 3,548 m ² 解体室 1,498 m ² 内臓処理室 582 m ² けい留所 2,080 m ²
市場関係事業者数	卸売業者	青果部 2 水産物部 2 鳥卵部 1	食肉部 1
	仲卸業者	青果部 24 水産物部 67	食肉部 4
	売買参加者	青果部 573 水産物部 18 鳥卵部 544	食肉部 178
	関連事業者	44	2
		青果部 2 水産物部 2 花き部 2	
		青果部 8 水産物部 21 花き部 4	
		青果部 331 水産物部 9 花き部 474	
		50	

(2) 流通形態



◎ 卸売事業者

各地の生産者・出荷団体等から集荷した生鮮食料品等を仲卸業者や売買参加者に販売します。

◎ 仲卸事業者

卸売業者から買い受けた品物を仕分け、市場内の店舗で小売店等に販売するとともに、スーパーなどに向けて、カットやパック詰めなどの加工ならびに配送を行います。

◎ 売買参加者

卸売業者から、直接買い受けることのできる納入専門業者、小売業者等です。

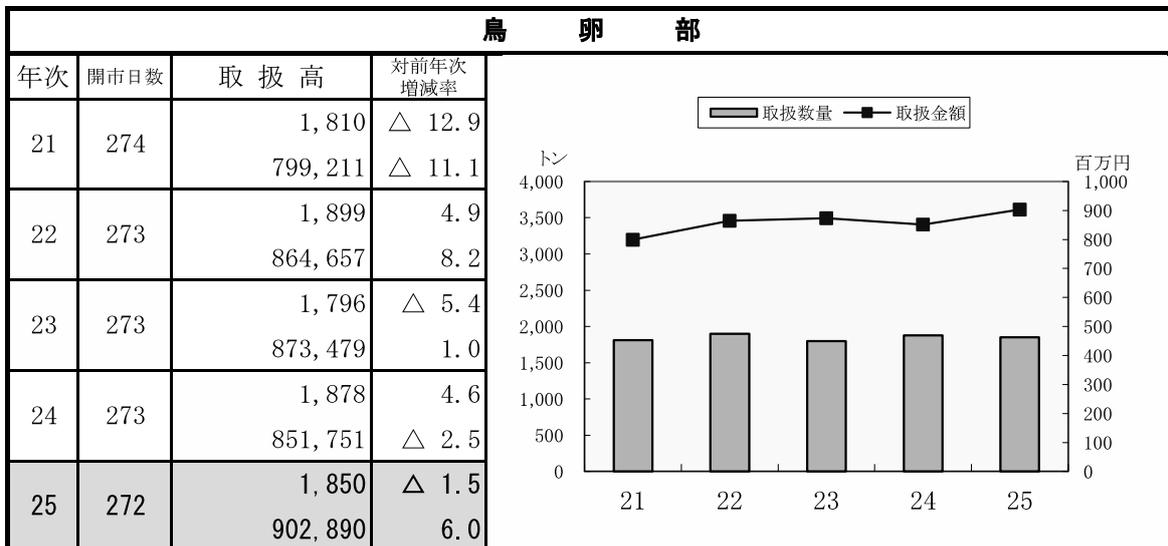
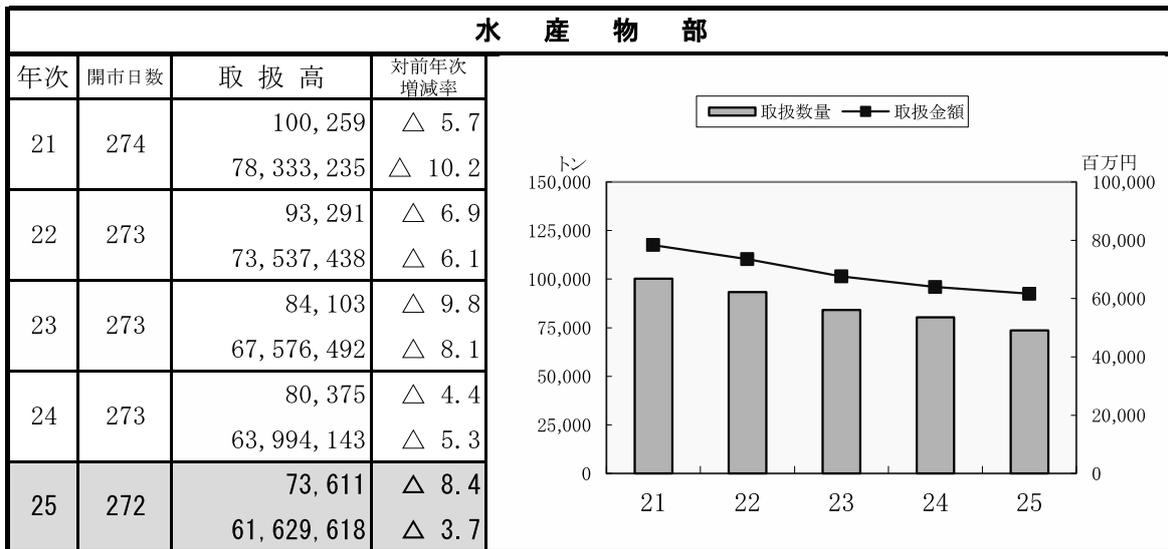
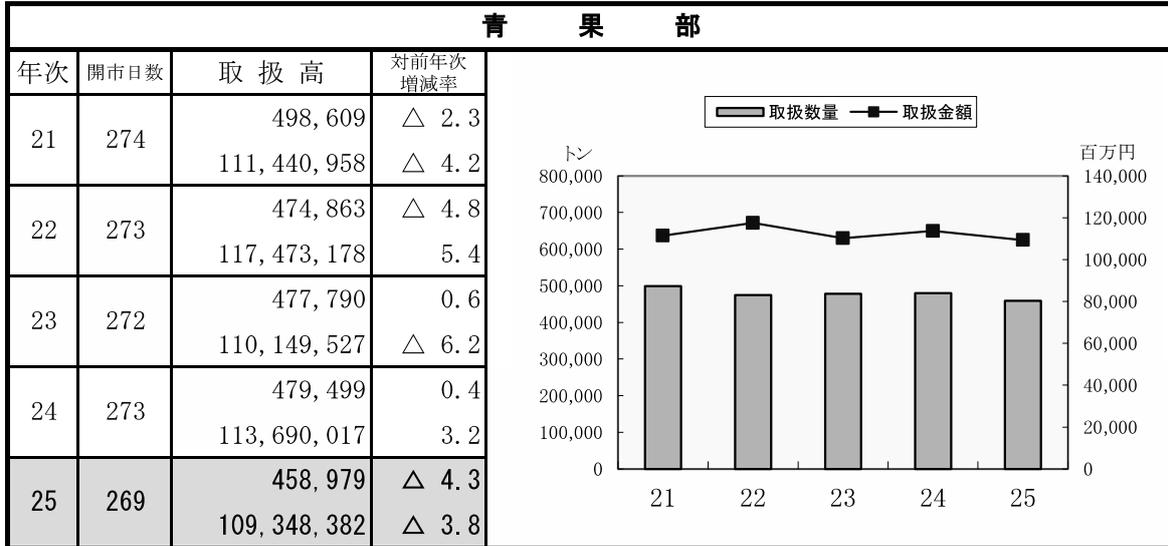
◎ 関連事業者

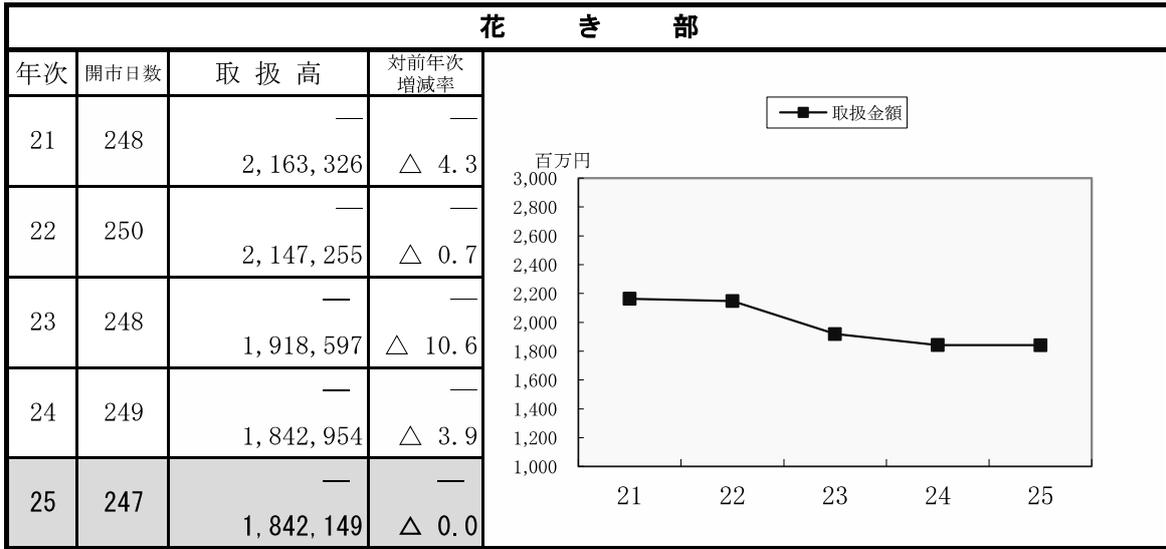
市場利用者のために運送業、(冷蔵)倉庫業、飲食店、金融業等の業務を市場内で行っています。

2 横浜市中心卸売市場の取扱高

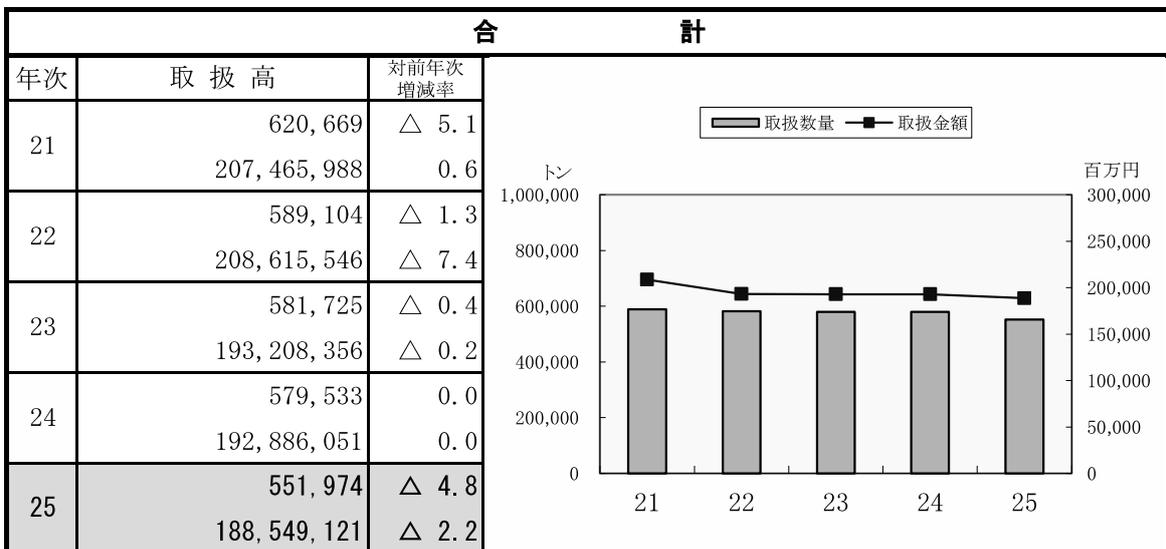
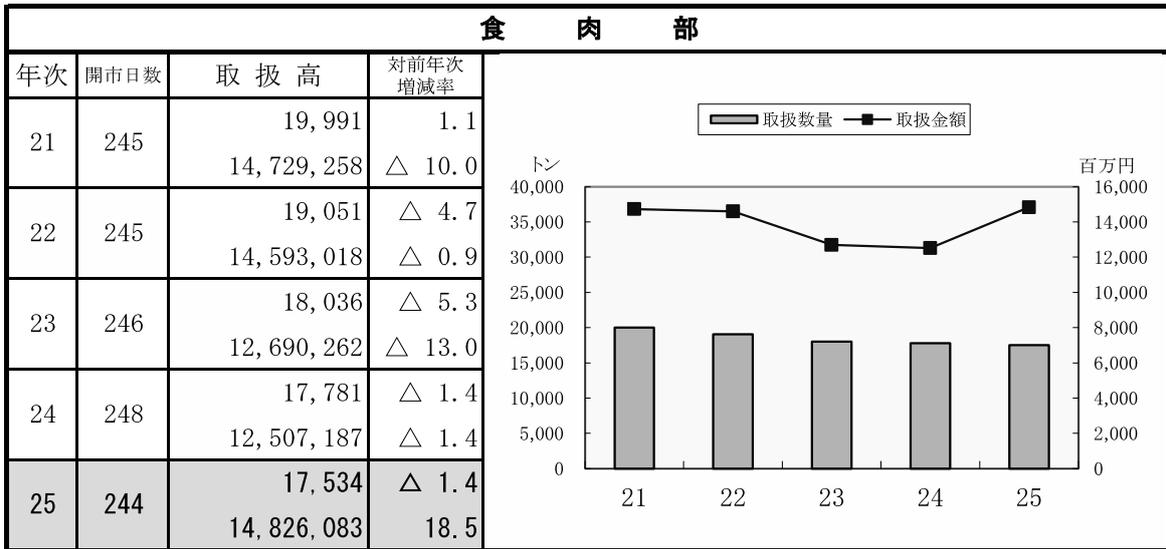
(1) 部別取扱高推移

[単位 上段：取扱数量＝トン・下段：取扱金額＝千円 対前年次増加率＝%]





(注) 「花き部」では、切花(単位:本)、鉢物(単位:鉢)等、取扱品により数量単位が異なるため、取扱金額のみ表示しています。



(注) 取扱数量に「花き」は含んでいません。

(2) 市場別・種別取扱高

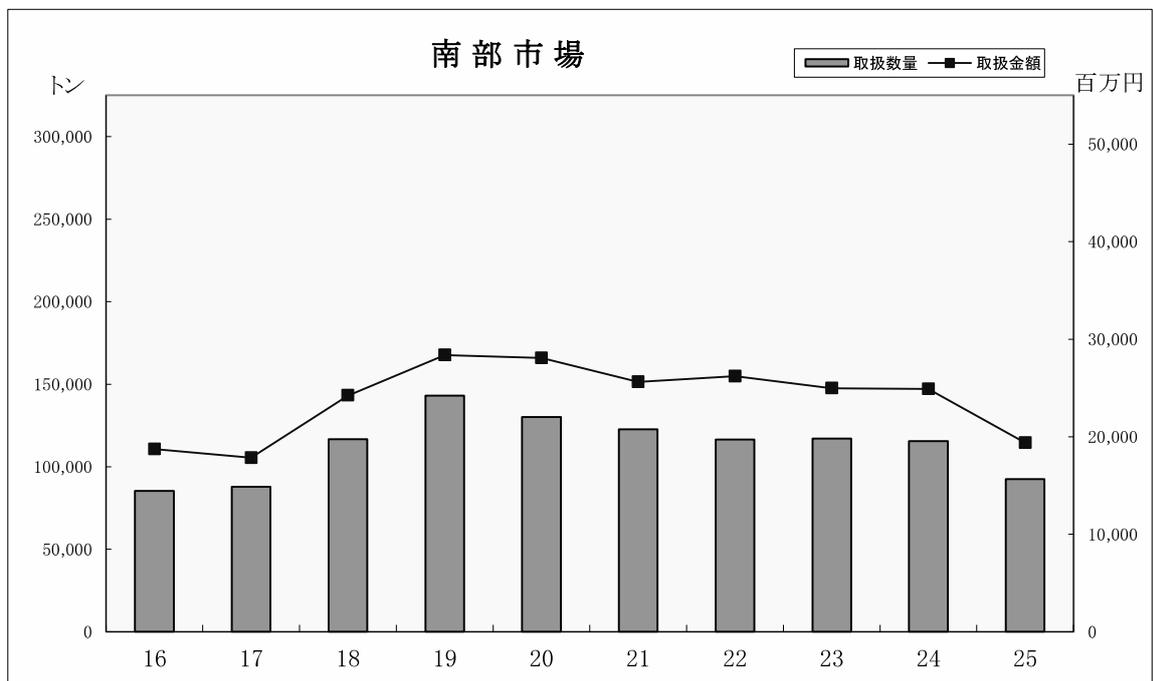
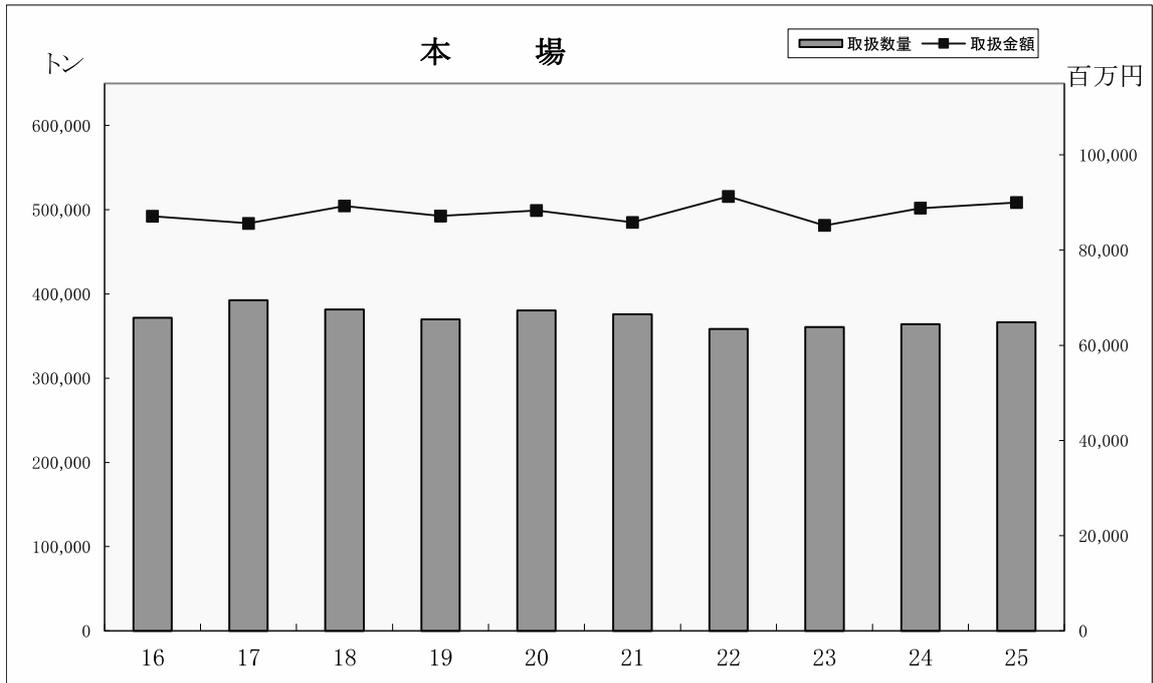
【青果部】

[単位 上段：取扱数量=トン・下段：取扱金額=千円 対前年次増減率=%]

市場	年次	野 菜		果 実		つけ物及び加工品		計	
		取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率
本 場	21	277,223	△ 0.9	89,223	△ 1.3	9,612	△ 5.7	376,058	△ 1.1
		60,679,307	△ 1.2	22,733,960	△ 6.6	2,390,011	△ 5.1	85,803,278	△ 2.8
	22	268,094	△ 3.3	81,213	△ 9.0	9,015	△ 6.2	358,323	△ 4.7
		65,789,738	8.4	23,247,041	2.3	2,224,602	△ 6.9	91,261,381	6.4
	23	274,704	2.5	77,568	△ 4.5	8,429	△ 6.5	360,701	0.7
		60,504,444	△ 8.0	22,571,068	△ 2.9	2,098,273	△ 5.7	85,173,784	△ 6.7
24	276,291	0.6	78,889	1.7	8,849	5.0	364,029	0.9	
	63,261,253	4.6	23,492,688	4.1	2,027,203	△ 3.4	88,781,143	4.2	
25	282,467	2.2	75,647	△ 4.1	8,466	△ 4.3	366,580	0.7	
	65,083,391	2.9	22,959,510	△ 2.3	1,909,116	△ 5.8	89,952,017	1.3	
南 部 市 場	21	83,547	△ 6.5	35,240	△ 4.8	3,764	△ 2.6	122,551	△ 5.9
		16,007,815	△ 9.0	8,513,864	△ 9.2	1,116,002	△ 0.6	25,637,680	△ 8.7
	22	81,408	△ 2.6	31,336	△ 11.1	3,796	0.9	116,540	△ 4.9
		16,812,345	5.0	8,260,264	△ 3.0	1,139,188	2.1	26,211,797	2.2
	23	82,181	0.9	31,366	0.1	3,542	△ 6.7	117,089	0.5
		15,549,159	△ 7.5	8,244,894	△ 0.2	1,181,689	3.7	24,975,743	△ 4.7
24	80,479	△ 2.1	31,249	△ 0.4	3,742	5.6	115,470	△ 1.4	
	15,510,891	△ 0.2	8,092,696	△ 1.8	1,305,287	10.5	24,908,874	△ 0.3	
25	70,229	△ 12.7	19,015	△ 39.1	3,155	△ 15.7	92,399	△ 20.0	
	13,236,684	△ 14.7	5,144,666	△ 36.4	1,015,014	△ 22.2	19,396,364	△ 22.1	
合 計	21	360,770	△ 2.3	124,463	△ 2.3	13,376	△ 4.8	498,609	△ 2.3
		76,687,122	△ 3.0	31,247,824	△ 7.3	3,506,013	△ 3.7	111,440,958	△ 4.2
	22	349,503	△ 3.1	112,549	△ 9.6	12,811	△ 4.2	474,863	△ 4.8
		82,602,083	7.7	31,507,305	0.8	3,363,790	△ 4.1	117,473,178	5.4
	23	356,884	2.1	108,934	△ 3.2	11,971	△ 6.6	477,790	0.6
		76,053,603	△ 7.9	30,815,961	△ 2.2	3,279,962	△ 2.5	110,149,527	△ 6.2
24	356,770	△ 0.0	110,138	1.1	12,591	5.2	479,499	0.4	
	78,772,144	3.6	31,585,383	2.5	3,332,490	1.6	113,690,017	3.2	
25	352,697	△ 1.1	94,662	△ 14.1	11,621	△ 7.7	458,979	△ 4.3	
	78,320,076	△ 0.6	28,104,176	△ 11.0	2,924,130	△ 12.3	109,348,382	△ 3.8	

(注) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

青果部 市場別取扱高の推移 (H16~H25)



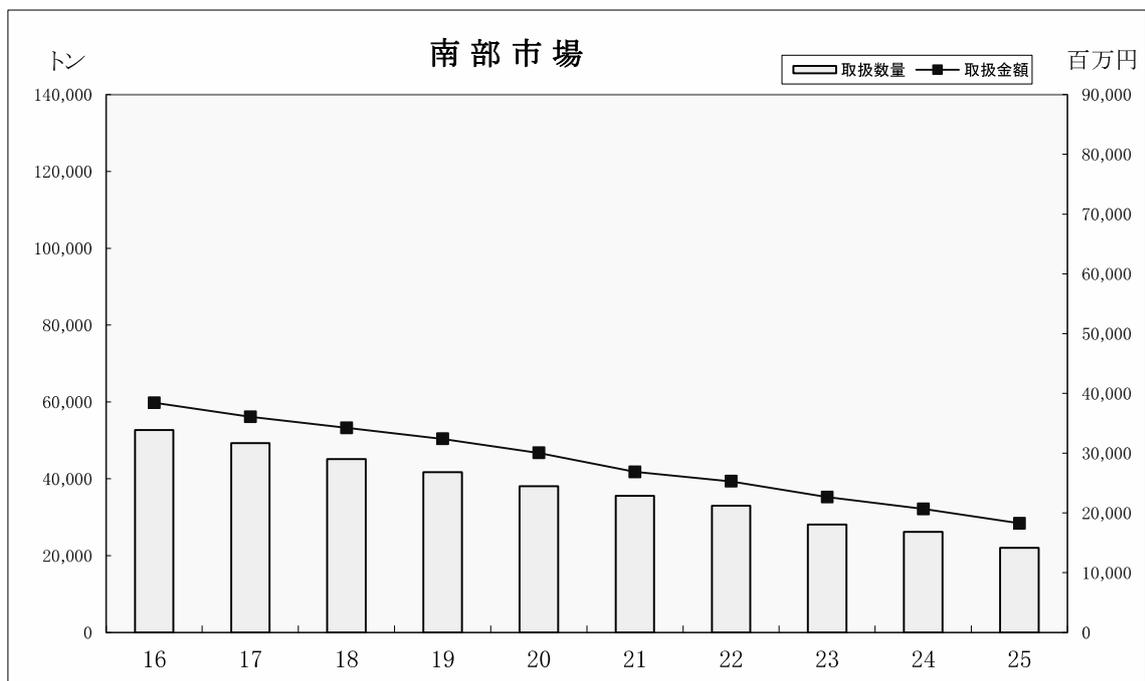
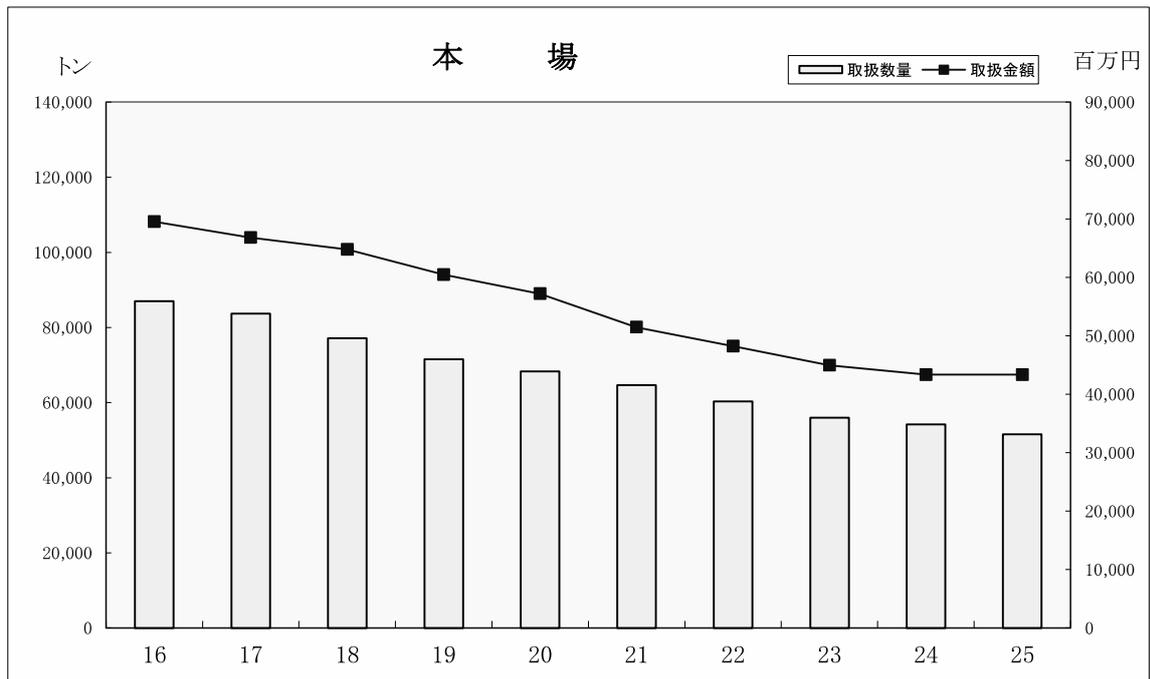
【水産物部】

[単位 上段：取扱数量=トン・下段：取扱金額=千円 対前年次増減率=%]

市場	年次	生 鮮 品		冷 凍 品		加 工 品		計	
		取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率
本場	21	27,552	△ 3.6	16,183	△ 5.5	20,954	△ 7.0	64,689	△ 5.2
		20,511,093	△ 9.8	14,968,990	△ 10.7	15,994,092	△ 9.7	51,474,176	△ 10.0
	22	25,963	△ 5.8	13,356	△ 17.5	20,961	0.0	60,279	△ 6.8
		19,935,827	△ 2.8	13,410,550	△ 10.4	14,903,550	△ 6.8	48,249,926	△ 6.3
	23	23,583	△ 9.2	11,465	△ 14.2	20,934	△ 0.1	55,981	△ 7.1
		18,468,466	△ 7.4	12,127,107	△ 9.6	14,348,371	△ 3.7	44,943,944	△ 6.9
24	23,456	△ 0.5	11,341	△ 1.1	19,440	△ 7.1	54,236	△ 3.1	
	18,191,246	△ 1.5	11,062,695	△ 8.8	14,089,939	△ 1.8	43,343,880	△ 3.6	
25	22,362	△ 4.7	11,368	0.2	17,819	△ 8.3	51,550	△ 5.0	
	18,218,754	0.2	11,501,813	4.0	13,632,988	△ 3.2	43,353,555	0.0	
南部市場	21	17,649	△ 2.8	6,026	△ 15.0	11,896	△ 7.2	35,570	△ 6.6
		12,038,856	△ 8.4	5,556,752	△ 19.0	9,263,451	△ 7.6	26,859,059	△ 10.6
	22	15,928	△ 9.8	5,935	△ 1.5	11,149	△ 6.3	33,012	△ 7.2
		11,248,367	△ 6.6	5,630,207	1.3	8,408,938	△ 9.2	25,287,512	△ 5.9
	23	13,244	△ 16.9	5,108	△ 13.9	9,769	△ 12.4	28,121	△ 14.8
		9,963,380	△ 11.4	5,121,882	△ 9.0	7,547,286	△ 10.2	22,632,548	△ 10.5
24	12,486	△ 5.7	4,685	△ 8.3	8,968	△ 8.2	26,139	△ 7.0	
	9,286,402	△ 6.8	4,499,534	△ 12.2	6,864,326	△ 9.0	20,650,263	△ 8.8	
25	10,877	△ 12.9	3,904	△ 16.7	7,280	△ 18.8	22,061	△ 15.6	
	8,386,921	△ 9.7	3,860,565	△ 14.2	6,028,576	△ 12.2	18,276,063	△ 11.5	
合計	21	45,200	△ 3.3	22,209	△ 8.3	32,850	△ 7.1	100,259	△ 5.7
		32,549,949	△ 9.3	20,525,742	△ 13.1	25,257,543	△ 8.9	78,333,235	△ 10.2
	22	41,890	△ 7.3	19,291	△ 13.1	32,110	△ 2.3	93,291	△ 6.9
		31,184,193	△ 4.2	19,040,756	△ 7.2	23,312,488	△ 7.7	73,537,438	△ 6.1
	23	36,827	△ 12.1	16,573	△ 14.1	30,703	△ 4.4	84,103	△ 9.8
		28,431,846	△ 8.8	17,248,989	△ 9.4	21,895,657	△ 6.1	67,576,492	△ 8.1
24	35,942	△ 2.4	16,025	△ 3.3	28,408	△ 7.5	80,375	△ 4.4	
	27,477,648	△ 3.4	15,562,229	△ 9.8	20,954,265	△ 4.3	63,994,143	△ 5.3	
25	33,239	△ 7.5	15,273	△ 4.7	25,099	△ 11.6	73,611	△ 8.4	
	26,605,675	△ 3.2	15,362,378	△ 1.3	19,661,564	△ 6.2	61,629,618	△ 3.7	

(注) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

水産物部 市場別取扱高の推移 (H16～H25)



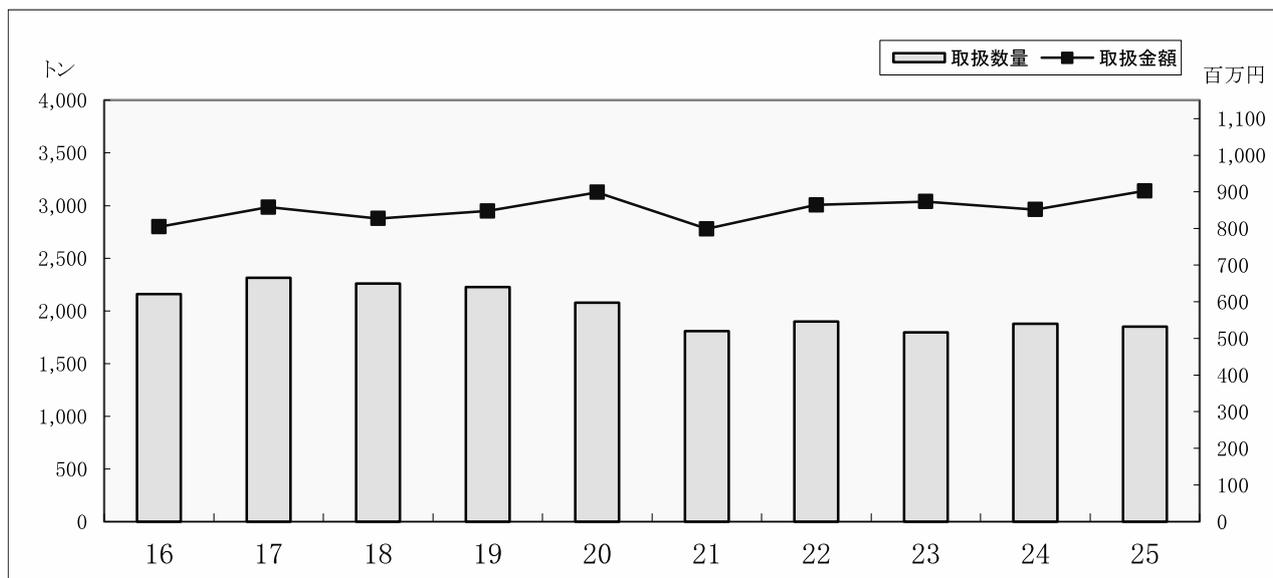
【鳥卵部】

[単位 上段：取扱数量＝トン・下段：取扱金額＝千円 対前年次増減率＝%]

市場	年次	鳥 肉		鳥 卵		合 計	
		取 扱 高	対前年次増減率	取 扱 高	対前年次増減率	取 扱 高	対前年次増減率
本 場	21	1,240	△ 9.0	570	△ 20.2	1,810	△ 12.9
		667,043	△ 8.0	132,168	△ 24.0	799,211	△ 11.1
	22	1,344	8.4	555	△ 2.6	1,899	4.9
		728,306	9.2	136,351	3.2	864,657	8.2
	23	1,264	△ 6.0	532	△ 4.0	1,796	△ 5.4
		738,851	1.4	134,628	△ 1.3	873,479	1.0
24	1,347	6.6	531	△ 0.3	1,878	4.6	
	728,714	△ 1.4	123,037	△ 8.6	851,751	△ 2.5	
25	1,316	△ 2.4	534	0.6	1,850	△ 1.5	
		768,255	5.4	134,635	9.4	902,890	6.0

(注) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

鳥卵部 取扱高の推移 (H16～H25)



【花き部】

[単位 上段：取扱数量＝（ ）・下段：取扱金額＝千円 対前年次増減率＝％]

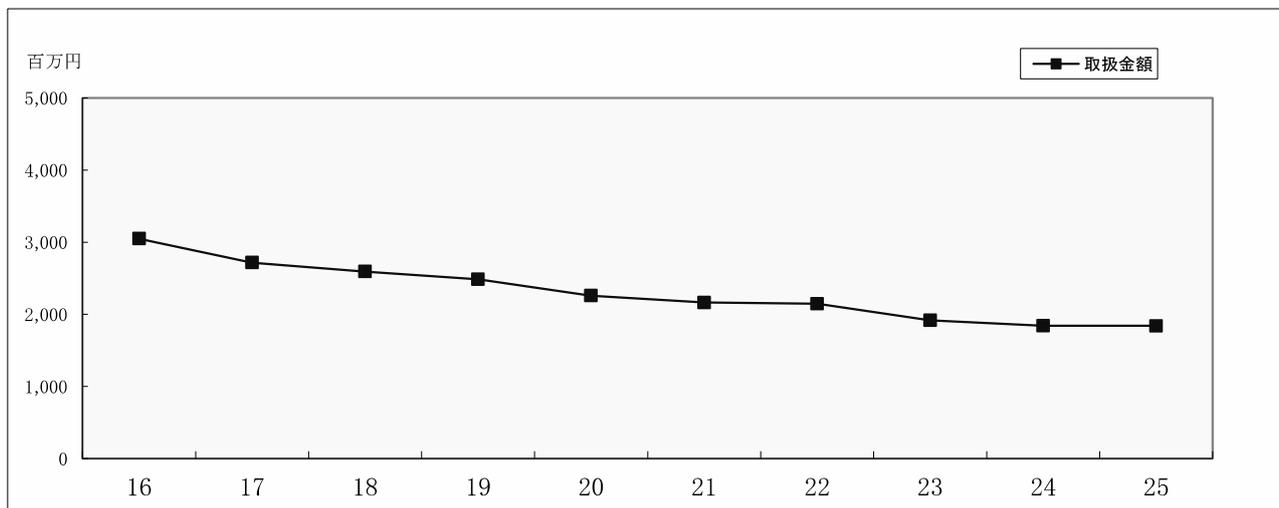
市 場	年 次	切花 (ケース)		枝物 (束)		鉢物 (鉢)		その他		合 計	
		取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率
南 部 市 場		330,220	△ 6.3	37,847	△ 4.1	1,417,715	△ 2.4	—	—	—	—
	21	1,783,912	△ 3.1	165,867	△ 11.1	198,197	△ 9.5	15,350	6.3	2,163,326	△ 4.3
	22	308,848	△ 6.5	34,720	△ 8.3	1,308,790	△ 7.7	—	—	—	—
		1,773,301	△ 0.6	165,041	△ 0.5	191,695	△ 3.3	17,218	12.2	2,147,255	△ 0.7
	23	286,725	△ 7.2	31,266	△ 9.9	1,242,856	△ 5.0	—	—	—	—
		1,579,933	△ 10.9	152,468	△ 7.6	169,040	△ 11.8	17,155	△ 0.4	1,918,597	△ 10.6
	268,466	△ 6.4	32,340	3.4	1,012,202	△ 18.6	—	—	—	—	
	1,522,197	△ 3.7	156,199	2.4	150,402	△ 11.0	14,155	△ 17.5	1,842,954	△ 3.9	
	268,840	0.1	30,524	△ 5.6	979,557	△ 3.2	—	—	—	—	
	1,534,556	0.8	157,591	0.9	135,786	△ 9.7	14,216	0.4	1,842,149	△ 0.0	

(注1) 1ケース＝100本、1束＝10把＝100本

(注2) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

(注3) その他は、野菜苗、球根、門松セットなどです。

花き部 取扱高の推移(H16～H25)



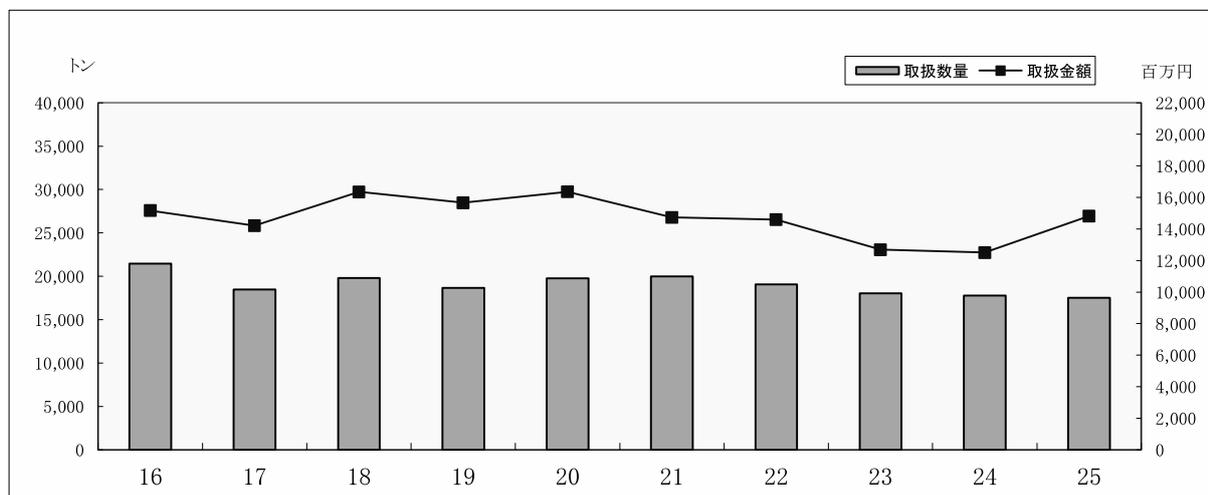
【食肉部】

[単位 上段：取扱頭数、()と畜頭数=頭・中段：取扱重量=トン・下段：取扱金額=千円 増減率=%]

市場	年次	牛		豚		その他		合計	
		取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率
食肉市場	21	20,394	△ 0.2	141,953	2.8	0	0.0	162,347	2.4
		(17,860)	(11.7)	(133,129)	(7.4)	(0)	(0.0)	(150,989)	(7.9)
		9,061	1.1	10,931	1.3	0	△ 100.0	19,991	1.1
		9,937,528	△ 6.9	4,297,791	△ 17.9	493,940	7.8	14,729,258	△ 10.0
	22	18,523	△ 9.2	138,426	△ 2.5	0	0.0	156,949	△ 3.3
		(17,204)	(△ 3.7)	(130,868)	(△ 1.7)	(0)	(0.0)	(148,072)	(△ 1.9)
		8,312	△ 8.3	10,739	△ 1.8	0	0.0	19,051	△ 4.7
		9,662,342	△ 2.8	4,457,365	3.7	473,311	△ 4.2	14,593,018	△ 0.9
	23	17,205	△ 7.1	137,739	△ 0.5	99	—	155,043	△ 1.2
		(14,934)	(△ 13.2)	(133,938)	(2.3)	(99)	—	(148,971)	(0.6)
		7,356	△ 11.5	10,663	△ 0.7	16	—	18,036	△ 5.3
		7,672,958	△ 20.6	4,639,302	4.1	378,001	△ 20.1	12,690,262	△ 13.0
	24	16,298	△ 5.3	135,681	△ 1.5	0	—	151,979	△ 2.0
		(14,047)	(△ 5.9)	(132,266)	(△ 1.2)	(0)	—	(146,313)	(△ 1.8)
		7,348	△ 0.1	10,433	△ 2.2	0	—	17,781	△ 1.4
		7,960,425	3.7	4,231,910	△ 8.8	314,851	△ 16.7	12,507,187	△ 1.4
	25	16,781	3.0	131,332	△ 3.2	9	—	148,122	△ 2.5
		(13,596)	(△ 3.2)	(130,417)	(△ 1.4)	(9)	—	(144,022)	(△ 1.6)
		7,446	1.3	10,086	△ 3.3	1	—	17,534	△ 1.4
		9,988,224	25.5	4,555,731	7.7	282,127	△ 10.4	14,826,083	18.5

注1) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。
 注2) 増加率は、単位未満を四捨五入する前の数値で計算した。
 注3) その他は、輸入牛肉・子牛・部分肉・副生物など。

食肉部 取扱高の推移(H16～H25)



(3) 全国主要都市との比較

平成25年次における全国主要都市の取扱金額を比較しますと、青果（表1）は全国で東京都、大阪市、名古屋市に次いで第4位となっています。

また、水産物（表2）は第6位、花き（表3）は第6位、食肉（表4）は第6位となっています。

(表1)

青果部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	528,680,114
2	大阪市	176,746,102
3	名古屋市	125,706,778
4	横浜市	109,348,382
5	京都市	69,115,875
6	福岡市	62,495,585
7	札幌市	60,189,964
8	仙台市	48,169,743
9	広島市	46,222,096
10	神戸市	37,846,110

(表2)

水産物部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	448,946,144
2	大阪市	153,833,447
3	名古屋市	122,108,706
4	札幌市	98,799,318
5	仙台市	76,411,273
6	横浜市	61,629,618
7	神戸市	53,475,074
8	福岡市	43,873,349
9	京都市	39,648,500
10	広島市	28,995,587

(表3)

花き部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	86,177,982
2	仙台市	9,399,407
3	広島市	6,313,001
4	神戸市	3,104,259
5	川崎市	2,944,346
6	横浜市	1,842,149

(表4)

食肉部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	110,150,863
2	大阪市	27,075,471
3	福岡市	19,095,914
4	名古屋市	15,648,644
5	仙台市	15,588,590
6	横浜市	14,826,083
7	神戸市	13,891,176
8	京都市	11,043,243
9	さいたま市	8,983,369
10	広島市	6,400,292

【参考】 全国の中央卸売市場数
(平成26年4月1日現在)

		市場数
中央卸売市場		67 (40都市)
うち	青果	53 (38都市)
	水産物	38 (32都市)
	花き	18 (14都市)
	食肉	10 (10都市)

